

## 交流集会「看護職への原子力災害医療教育を考える」 Examination of nuclear disaster medical education for nurses

吉田 浩二<sup>1</sup> 山田 裕美子<sup>2</sup> 飯干 亮太<sup>3</sup>

佐藤 良信<sup>4</sup> 辻口 貴清<sup>5</sup>

Koji YOSHIDA<sup>1</sup> Yumiko YAMADA<sup>2</sup>

Ryota IIBOSHI<sup>3</sup> Yoshinobu SATO<sup>4</sup> Takakiyo TSUJIGUCHI<sup>5</sup>

- 1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- 2 長崎大学病院
- 3 広島大学病院
- 4 福島県立医科大学附属病院
- 5 弘前大学大学院保健学研究科

- 1 Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences
- 2 Nagasaki University Hospital
- 3 Hiroshima University Hospital
- 4 Fukushima Medical University Hospital
- 5 Hirosaki University Graduate School of Health Sciences

原子力災害医療について、現在国内では基幹高度被ばく医療支援センターの量子科学技術研究開発機構を中心に、弘前大学、福島県立医科大学、広島大学、長崎大学の4つの高度被ばく医療支援センターで全国の医療者を対象に研修会を実施しているが、すべてはチーム医療ベースの教育であり、看護師に特化した教育とはなっていない。

本交流集会では、高度被ばく医療支援センターにおける研修会の概要および各センターが展開している特色ある内容の紹介をもとに、原子力災害医療教育の拡充に向けた教育内容・教育手法・教育教材を検討し、原子力災害医療に対する看護職の知識やスキルを上げる方策を検討することをねらいとした。

当日は、約40名の参加者がオンライン上に集まり、企画責任者の吉田より本交流集会のねらいと現在の原子力医療体制の説明を行った。引き続き、弘前大学辻口氏より、自施設の全職員に対する研修会への受講率向上の取り組みとその成果について紹介していただいた。次に福島県立医科大学附属病院佐藤氏より、院外向けセミナーおよび院内向けセミナーの実施内容と受講生からの声（アンケート結果）を紹介していただいた。次に広島大学病院飯干氏からも院内外向けの研修会の内容に加え、院内の広報活動について紹介いただき、院内の原子力災害医療教育に関する課題を提示していただいた。最後に長崎大学山田氏より研修会での大学院生の活用（後進の人材育成）と研修会での看護師の理解度の結果、原子力災害医療における看護師の役割についてご示唆をいただいた。発表後のディスカッションでは、看護師対象の研修会の必要性や研修内容の検討などが議論され、また参加者からは原子力発電所の立地県やその隣接県でない医療者への教育体制についての課題も

挙げられた。本交流集会を通して、各センター独自の特色ある研修会への取り組みや教育上の課題が研修実施者レベルで共有できたと共に、その現状を放射線看護に関わる参加者に示し、一緒に議論できたことは大変有意義であったと考える。この議論の結果を今後の検討資料とし、研修会などで反映していきたい。また、この交流の場を機会に、本分野の看護教育体制の整備や看護系ネットワークの構築につなげていきたい。

ご発表いただいた皆さま、参加者の皆さまにこの場を借りて深く感謝申し上げます。

○以下、交流集会アンケート結果より一部紹介。

- ・ 部署異動がある看護師のスペシャリストをどのように育てるか、興味を持つ看護師の興味の維持と、いかに裾野を広げていくかが課題だと感じました。
- ・ やはり看護職独自教育が必要だと認識しました。中核人材研修はチーム医療として取り組むことを考えていると認識しているが、その前段とする研修は必要ではないか。
- ・ 4センターの看護師のネットワークが構築され、活動できるとよいと思いました。
- ・ 看護教育における（放射線看護）教材について、事例集などが掲載された教科書などがほしいです。